



でん太の 教えてドクター

その②④「入れ歯を入れる」ということは…



お話／足立優歯科診療所 足立 優 院長

ゲスト いつもでん太がお世話になつとります。

D r. これはこれは。でん太のおじいさんですか、初めまして。

ゲスト いえ、わたしはでん太の曾々々祖父ですわ。

でん太 これはぼくのひいひいひいひいおじいちゃん。

D r. ひええ、すごいね。立派な髭で、何だか森の仙人みたいだね。

でん太 森のみんなに慕われている長老なんだよ。

ゲスト ところですな、今日こちらに伺いましたのは、わたしの入れ歯のことでご相談したいことがあります。

D r. ほう、入れ歯。
ゲスト まったく、森の長老が聞いて呆れますわ、入れ歯やなんて。年齢には勝てんもんですなあ。奥の歯からだんだん抜けてしても、ついに数が半分になってしもたんで入れ歯にしてもうたんで。ええのんを入れたんで、ごっつい高かったんですけど、何や、ちよっと間したら、だんだん具合悪うなってきたんです。

D r. という、うまくもの

が食べられない、とか？

ゲスト うまく噛まれへんし、入れ歯がこすれて痛いんですわ。

D r. それは、入れ歯ともとの歯のバランスが悪いのかもしれないですね。

ゲスト けどものすごいええ材質で作つてもうたんですよ。ずっと歯がなくて不自由してたところに、歯がでけたって、喜んでんけどねえ。

D r. 入れ歯を作つてもらったとき、先生とどんなことを相談されました？

ゲスト 相談いうても、とにかく歯がないのがしんどいから、歯のないところに歯を入れてくれと言うたんです。それが入れ歯ちゅうもんでしょ？

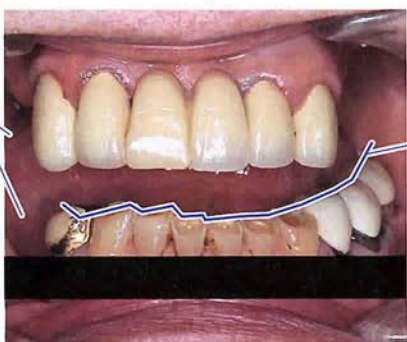
D r. うん、なるほど。おじいさん、いや長老。まずはその考えを改めないといけませんね。入れ歯を入れる、という事は、歯のない場所に歯を入れるということではありません。

でん太 ええ？ドクター、どういうこと。

D r. 入れ歯を入れるという

ことは、口の中全体をきれいに整えるということ。歯はもともと歯ぐきから生えているもの、そこに歯がなくなっただけからといって入れ歯を入れるだけでは、自分の歯と入れ歯の、噛む力を支える能力がちがうので、バランスが悪くなるんです。自分の歯と入れ歯の歯並びや、噛む力の分担といったバランスを整えなければ、不均一に飛び出した部分などに負担が集中し、うまく噛めないことが起こるんです。そうすると、いくら良い材質のものを入れても、長持ちしないんです。入れ歯を

入れるときは、歯がなくなっただけに歯を入れるだけではなくて、他の歯も一緒に整えて、お口の中全体の歯並びや噛む力を、バランス良く整えなおすということ。先生と一緒に考えてほしいですね。ゲスト なるほど。それじゃあわたしも改めて、口の中全部を見てもらいましうかの。Dr. これを機会に、入れ歯だけでなくお口の中をきれいに整えてみましようか。噛み合わせが良くなれば、お食事をもっとおいしく食べられるし、お顔の雰囲気も変わるかもしれませんよ。



抜けた奥歯

すりへった歯ならびが不均一で、このままではうまくかめません



入れ歯

入れ歯を入れるとともに歯のならびをきれいに整えました

足立 優歯科診療所

神戸市東灘区岡本1・3・33
TEL 078・411・0024 FAX 078・411・0056
mail.adachi@kba.att.ne.jp
http://ado.pr-business.net

※これからは患者の権利を守る予防歯科医療が主流となります。情報をお知りになりたい方は、Dr.足立までお問い合わせ下さい。

■足立 優（あだち まさる）
1960年生まれ。大阪歯科大学卒業。1988年米國留学後、神戸市東灘区に足立優歯科診療所開設。行動医学の概念を基盤とした自己決定に基づく予防管理中心型の歯科医療を展開する。また、この概念にもとづく医療システムの普及のために「NPO法人・明日の歯科医療を創る会 POS」を設立し、社会に対して歯科医療情報の公開と、よりよい歯科医療を求める患者の支援を行なっている。

●明日の歯科医療を創る会
ホームページ
http://www.asunoshika.com
0784354618

ぴんとん

—トウル・ドール—

美しい眺望を眼下に
誓う金星(ビーナス)
ウェディング

神戸の夜景スポット・ビーナスブリッジにある老舗レストラン「トウル・ドール」は、神戸市街地を一望しながら本格フランス料理が楽しめるお店として、家族三代にもわたるファンもいるという名店のひとつだ。



木戸充郎さん



その名店が、今年から専属のウェディングプロデューサーを配して、本格的にレストランウェディングの提案

をはじめというから、見逃せない。担当するプロデューサー一筋の木戸充郎さん。木戸さんに聞く、トウル・ドールのウェディングの魅力とは「やはりお料理と神戸を一望できる眺望」。



結婚当日は新郎・新婦が、いわばホスト役になって、出席された方々をおいしいお料理と美しい眺めでおもてなしをすること。それはお二人だけでなく、ゲストの皆さんにとっても最高の思い出となります「世界で一番輝く星

「金星」に誓う「ビーナスウェディング」と名づけられたとか。アットホームな雰囲気と、さまざまな要望に応えられることが魅力のレストランウェディング。こだわるカップルも、ぜひ木戸さんに相談して、最高の一日を創りあげてほしい。またビーナスブリッジといえば「愛の鍵」で有名なデートスポット。公園内にあるモニユメントに、挙式したお二人の愛の証しの鍵を取り付けるセレモニーなども提案している。宗派にこだわらず挙式も可能。披露宴やパーティなどの利用ももちろんOK。



■トウル・ドール

神戸市中央区諏訪山公園展望台 ☎078-241-0168
11:00~22:00(L.O.21:00)年中無休<http://www.tourdor.jp>
通常/ランチコース2,100円~/ディナーコース6,930円~



中右瑛先生『夢二燎爛』出版記念

大正モダンアート

夢二・宵待草の宴



本誌「神戸ゆかりの源平浮世絵」でおなじみ、中右瑛先生の『夢二燎爛』出版を記念して、11月11日ホテルオークラ神戸にて、竹久夢二をテーマとした「夢二・宵待草の宴」がおこなわれた。

会では中右先生のお話からスタート。「波瀾万丈・夢二恋人生」のタイトルで、4人の魅力的な女性たちとの恋に彩られた夢二の人生がテーマ。ビデオ映像や初出展の作品を交えながらのお話は、これまであまり語られていない内容で非常に興味深いものだった。

そして夢二作詞の歌「宵待草」など、懐かしい歌を芦原昌子さんが熱唱。すみれ総合

美容の宮園貴江さんの協力による大正ロマンムード溢れる衣装で、会場を魅了。夢二の映像と澄んだ歌声のコラボレーションも見事だった。

林五和夫さんの発声による乾杯の後、お食事も趣向を凝らし、大正ロマン夢二膳と、夢二にちなんだネーミングの屋台で。ホテルオークラ神戸和食堂「山里」の加藤良一料理長が腕を振るい、長崎チャンポン、神戸牛すじコンニャク葱焼、明石の穴子箱寿司、みたらし団子…と色とりどりの屋台コーナーは大盛況。

約100人の参加者たちはしばし大正時代にタイムスリップ。ロマン溢れる時間を過ごした。また、おみやげにと中右先生から全員に『夢二ドキュメント 波瀾万丈・恋人生』と『夢二燎爛』の2冊の著書をプレゼント。サインにも快く応じる姿に、中右先生の人柄が伺えた。



南米の小国・ウルグアイ。年に1本の映画も作られていない国から、カンヌ映画祭ワールドプレミア等で世界中を虜にした傑作が登場した。

ウルグアイのさびれた靴下工場。二人の兄弟と、生真面目な中年女に、少々はいんちきと策略が降りかかる…。ほとんど三人のみの登場人物が織りなすドラマは、セリフが少ないにも関わらず、それぞれの人物が次第に愛しくなってくる。人生の可笑しさ、哀しさ、そして素晴らしさをユーモラスに描いた作品。



ウルグアイ発・2004年の作品「ウイスキー」

市民映画劇場12月例会 「ウイスキー」

神戸市産業振興センター
(ハーバーランド、プロメナ神戸東隣)
12/9(金)10(土)1日4回公演
前売1,300円(当日一般1,500円
障害者・シニア1,100円 学生1,300円)
■間/神戸映画サークル協議会
☎078-331-8538
<http://www.kobe-eisa.com>

西宮にオープンした芸術文化センターで、県立ピッコロ劇団が贈る豪華記念大作。脚本は、市川猿之助歌舞伎の脚本を数々手がけてきた気鋭の作家・石川耕土、演出は「ネオかぶき」と称して活動する人気劇団「花組芝居」を主宰し、作・演出・女形も演じる才人・加納幸和。出演者には渡辺徹を招くほか、語りには浜村淳。

待望の初顔合わせで、「仮名手本忠臣蔵」全11段を、新エンターテインメント時代劇として一挙上演に挑む。かつてないおもしろい芝居、乞うご期待。



兵庫県立ピッコロ劇団 第24回公演 「KANADEHON 忠臣蔵」

兵庫県立芸術文化センター
(阪急西宮北口駅南へ)
1/28(土)~2/3(金)
一般5,000円 中高生(3歳以上)
3,000円(全席指定)
■間/兵庫県立ピッコロ劇団
☎06-6426-8088
<http://hyogo-arts.or.jp/piccolo>

藤本由紀夫によるサウンドオブジェ、サウンドインスタレーション、ワークショップ、レクチャー、関連コンサート等で構成された一日だけの展覧会。2006年までの10年間、毎年1回、1日だけ開催されている。美術館は、作品を展示する空間ではなく、芸術を体験する空間となり、作家は「日常の空間を変換する装置としての作品」を通して異次元の世界に誘う。参加者は、館内の様々な場所に配された作品を探し、自らで体験する。



美術館の遠足9/10 藤本由紀夫× 西宮市大谷記念美術館

西宮市大谷記念美術館
(阪神香櫛園駅徒歩10分)
12/23(金祝)
11:00~21:00(入館20:00まで)
一般500円 高大生300円 小中生200円
■間/西宮市大谷記念美術館
☎0798-33-0164
<http://www.nishi.or.jp/otani/>

大阪フィルハーモニー交響楽団や大阪シンフォニカー交響楽団などで活躍するアーティストたちによって結成されたフルートカルテットによる特別ライブ。ビル最上階からの眺めも美しい、アットホームなライブハウスで、洗練された音色をお楽しみください。

出演は、フルート・井上登紀(大阪フィル奏者)、バイオリン・長原幸太(大阪フィル首席客演コンサートマスター)、ヴィオラ・鈴木康浩、チェロ・金子鈴太郎。



井上登紀

Special Flute Quartet フルート・カルテット 特別ライブ

クラシックライブハウス
ピア・ジュリアン
(JR三ノ宮駅・阪急三宮駅北側/
1階マクドナルドのビル9階)
12/11(日)20:00開演
チャージ2,000円(通常チャージ込)
■間/ピア・ジュリアン
☎078-391-8081

ライブハウススケジュール

ジャズライブ&レストラン SONE

- 12/1 (木) 新井雅代+トリオ
 2 (金) 大越理加+トリオ
 3 (土) 北莊桂子+トリオ
 4 (日) ロイヤル・フラッシュ・ジャズバンド
 5 (月) 石野見幸+トリオ
 6 (火) 辛島寿美子+トリオ
 7 (水) 猿丸詩摩子+トリオ
 8 (木) 大塚善章トリオ+宮野英子
 9 (金) 北莊桂子+トリオ
 10 (土) 新井雅代+トリオ
 11 (日) 鍋島直禎クワルテット+大越理加
 12 (月) 矢野麻衣子+トリオ
 13 (火) 岩宮美和+トリオ
 14 (水) 溝口恵美子+トリオ
 15 (木) 古谷充クワルテット
 16 (金) 辛島寿美子+トリオ
 17 (土) ベティ鞍富+トリオ
 18 (日) 井手厚トリオ+ロアナ・シーフラ
 19 (月) 杉山千絵+トリオ
 20 (火) キャンディー・浅田+トリオ
 21 (水) 大越理加+トリオ
 22 (木) 長谷川元伸クワルテット+北莊桂子
 23 (金) 祖田修トリオ+新井雅代
 24 (土) 石川潤二トリオ+大越理加
 25 (日) 祖田修トリオ+北莊桂子
 26 (月) ロアナ・シーフラ+トリオ
 27 (火) 新井雅代+トリオ
 28 (水) ジャネット+トリオ
 29 (木) 北浪良佳 (Yoshika) +トリオ
 30 (金) 菅まなみ+トリオ
 31 (土) Count Down 2006 Vocal: 新井雅代、大越理加、北莊桂子、辛島寿美子 長谷川元伸 (As) 高岡正人 (p) 他



キャンディー・浅田

※1/1~4休み

■JAZZ LIVE & RESTRANT SONE

北野坂 078-221-2055

<http://kobe-sona.com>

★ミュージックチャージ900円

★日曜日昼下りのジャズライブ開催中

クラシックライブハウス ピアジュリアン

- 12/1 (木) 好本由希子 (ソプラノ) 鈴木華重子 (p)
 2 (金) セヤナ・プラスアンサンプル
 3 (土) 溝口志保 (ソプラノ) 藤江圭子 (p)
 4 (日) 雲井千賀 (トランペット) 藤溪優子 (p)
 6 (火) 藤川健 (テノール・チューバ) 植田浩徳 (p)
 8 (木) 青木耕平 (バリトン) 多久江里子 (p)
 9 (金) 三村哲子 (p)
 10 (土) 雑賀美可 (ソプラノ) 晴雅彦 (バリトン)

- 藤江圭子 (p)
 11 (日) 特別ライブ フルート・カルテット/
 井上登紀他 (P88参照)
 12 (月) 近藤美香・金澤佳代子 (p) 連弾
 13 (火) 中鼻佐和 (ヴァイオリン)
 14 (水) 老田裕子 (ソプラノ) 藤江圭子 (p)
 16 (金) 今井順子・岩佐明子 (p) 連弾
 18 (日) 中島悦子 (ヴィオラ) 林典子 (p)
 19 (月) 宮崎万里 (ヴァイオリン) 植田浩徳 (p)
 20 (火) 高橋乗子 (チェロ) 鈴木華重子 (p)
 21 (水) 朴俊恒 (バリトン) 藤江圭子 (p)
 22 (木) 田原鏡子 (ソプラノ) 森玉美穂 (p)
 23 (金) 佐藤和宏 (クラリネット) 戸川晃子 (p)
 24 (土) 尾崎比佐子 (ソプラノ)
 25 (日) 武田有賀・山本京子 (p) 連弾
 26 (月) 山腰まり (フルート) 鈴木華重子 (p)
 28 (水) 弦楽四重奏 / 谷本華子・井上なつき・
 吉田陽子・高橋乗子
 29 (木) 渡辺可奈 (フルート) 藤溪優子 (p)
 31 (土) カウントダウンコンサート

※1/1~4休み (予定)

■クラシックライブハウス PIA Julien

三宮駅北側近藤ビル9階

078-391-8081 月曜定休

<http://pia-julien.com>

ジャズクラブ Holly's

- 12/1 (木) P大内玲子B坂口典右D中島要
 2 (金) V林りえSax鈴木久美子B宗川信
 3 (土) P辻佳孝D松田広土B木村知之
 8 (木) V河野美紀P高橋玲奈B宮上啓二
 9 (金) ゴスペルThe Earth Born
 10 (土) Vあべやすこ・河本江関子・加留部洋美
 P長井美恵子B森本良平H森本優子
 D中島要
 15 (木) マリンバ山中ゆきこ他
 16 (金) V佐川明子他
 17 (土) V高貴みなP杉本亨B奈良原裕一
 22 (木) V山中敬子P中山卓士B坂口典右
 23 (金) V荒畑佳千子P赤松真理B香山正人
 Sax佐々木茂
 24 (土) 尺八RobinEve G RonMason Tb
 DaveBoyle B小出正D松井道朗V林幸
 29 (木) セッションナイト
 30 (金) ゴスペルThe Earth Born

※12/31~1/4休み

■KOBÉ JAZZCLUB Holly's

三宮駅北徒歩7分、新神戸駅南徒歩7分

加納町 078-251-5147

<http://www.kobe-hollys.com>

ライブハウス チキンジョージ

- 12/1 (木) AB's
 2 (金) PERSONS
 3 (土) 沼澤尚十勝井祐二
 4 (日) 堂島孝平feat. 佐野元春
 5 (月) 難波弘之&センス・オブ・ワンダー
 6 (火) KOREANS
 10 (土) SHERBETS
 11 (日) CINNAMON
 12 (月) アナム&マキ/e-ha? ムッシュかまやつ
 15 (木) スクービードゥー/The miceteeth
 16 (金) TENSAW
 17 (土) 村田和人 (vo&g) ほか
 18 (日) 松ヶ下宏之
 19 (月) 角松敏生
 21 (水) THE BLUES POWER 永井隆ほか
 22 (木) ・23 (金) ・24 (土) T-SQUARE
 26 (月) ・27 (火) 東京スカパラダイスオーケストラ
 28 (水) BLACK BOTTOM BRASSBAND
 29 (木) クニ河内とかれのともだち

■THE LIVE HOUSE CHICKEN GEORGE

生田神社西 078-392-7431

<http://www.chicken-george.co.jp>

ライブハウス メイデンヴォエッジ

- 12/2 (金) jazz 5 guitar
 3 (土) アコースティックライブ 古川麻友他
 4 (日) スペシャル"カホン"ナイト
 jamzlp・painojac・AZ他
 5 (月) サ・ダブラース / 江川ほーじん (b)
 水野正敏 (b)
 東原力也 (dr)
 小田文明 (key)
 9 (金) ロックポップスライブ
 CROSS+BREATH・兔キック・中西大介他
 10 (土) 浅井智子Musical Selection Live
 16 (金) pradox live
 19 (月) タイガー大越「タイガー'sバグ」
 21 (火) 岡本博文island
 23 (金) 嶋田tosh&SONAR+NASEBOゴスペル
 28 (水) 竹下咲・Mr Smithポップスライブ
 30 (金) アカベラ大好き大集合飛び入りイベント



タイガー・夫越

■Livehouse Maiden voyage

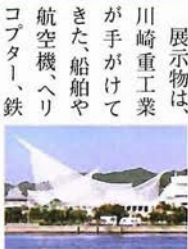
阪急六甲駅北側すぐ

078-805-0899

<http://www.koyo.net/maiden-voyage/>

川崎重工の技術が 海洋博物館に展示

メリケンパークにある神戸海洋博物館に、新しい展示スペースがオープンする。川崎重工が、自社製の船舶、航空機、新幹線などの鉄道車両などの技術を展示する。2006年春にオープンする予定。



展示物は、川崎重工が手がけてきた、船舶や航空機、ヘリコプター、鉄道車両などの実物をはじめ、数々の製品等。造船の古くからの歴史や、産業用ロボットなどの最新技術に触れられる展示スペースが楽しみ。

■神戸海洋博物館
神戸市中央区波止場町2-2
078-33278983

神戸ワイン

新酒「みのり」 今年もおいしく登場

神戸ワイン2005年新酒「みのり」が、10月21日より発売となった。

今年是好天に恵まれ、過去最高の出来といわれた2004年産に勝るとも劣らない、すばらしいぶどうが収穫できたとか。摘みたての

ぶどうならではの、さわやかな味わいを楽しんでほしい。口当たりの柔らかいメルロー

を100%使用した、ほどよい酸味特徴の赤ワイン(1260円)、2005年産最高級品種リースリング等を使用した、清涼感あふれるフレッシュな味わいの白ワイン(1050円)、お好みどうぞ。



株式会社神戸ワイン
078-99113916

堀尾貞治 横浜より凱旋!

横浜市で「横浜トリエンナーレ2005」が、今年も世界各国から旬の現代アートを集め、開幕した。12月18日まで開催される、この現代美術の祭典には、世界30カ国からアーティストが参加し「アートサーカス(日常からの跳躍)」をテーマに、展示やパフォーマンスを行なった。

神戸の現代アーティスト、堀尾貞治と、堀尾率いるアーティスト集団・現場芸術集団「空気」も、今回のトリエンナーレに参加し、話題となった。これまで、ひたすら壊していく、パフォーマンスや、短



2005.12/15(木)~20(火)11:00~19:00 会場:神戸市中央区

時間でおびただしい数の作品を作り出す展覧会、兵庫運河でのパフォーマンスなど、いつも見るものを驚かせる堀尾が、横浜でどのように暴れまわったのか。神戸・南京町にあるギャラリー「蝶屋」では、12月15日(木)~20日(火)に「堀尾貞治十現場芸術集団「空気」横浜トリエンナーレ2005 in神戸」展を開催する。横浜でのパフォーマンスの一部や作品の一部の展示、ビデオ放映などが予定されている。

■南京町ギャラリー「蝶屋」
神戸市中央区栄町通2-8-10
078-3320628

菅原泷人の世界展 京都・美山で

パリ風景や、神戸界限を、独特の風合いで描く画家・菅原泷人。本誌の好評連載「エッセイ」コーヒークップの耳」では墨一色の挿絵を披露している。

GALLERY

元町画廊88周年 劉長煒 作陶展 陶芸という芸術

北野工房で活躍中の陶芸家・劉長煒さんの作品展が、元町画廊88周年を記念しておこなわれる。

陶芸の美に挑戦し、その芸術性を追求する。大胆な釉薬づかいの躍動感のある作品は、まさにアートそのもの。また、神戸で活躍するアーティストたちが絵付けをした作品は、チャリティーにユニークな器たちが並ぶ。

土と炎と、劉さんの創造性が生み出す芸術の世界を堪能したい。

12月15日(木)~20日(火)
10時30分~18時30分
(最終日17時)

元町画廊 (元町商店街東入り口南)
078-3312359



絵付作品





現在、京都・美山の「美山かやぶき美術館」で12月25日(日)まで「菅原洗人の世界展」を開催中。山深い地にある素朴なかやぶき美術館で、菅原が過去30年にわたりヨーロッパで制作した油彩画や水彩画を展示。深い山々に囲まれた静かな土地で菅原世界に浸ってほしい。開館は10時～16時30分。入館料500円。

■美山かやぶき美術館・郷土資料館
京都府北桑田郡美山町島
0771-751777

幻想的な氷彫刻が 六甲山に

氷彫刻のプロの手による美しい芸術作品が並ぶ「第2回六甲山水の祭典」が、1月13日(金)～16日(月)六甲ガーデンテラス内特設会場で開催される。今年2月に開催され、大好評をえた祭典の2回目だ。今回は、新潟県中越地震被災地である長岡市と連携。復興と連帯を表現した、長岡市の市章であ

る「不死鳥」、神戸空港開港を記念した「飛行機」の2体の大型作品が登場する。他コンテンツ作品の展示、子どもたちに大人気の氷のすべり台、迷路や、温かい飲み物やお料理が楽しめるグルメブースも用意される。10時～21時(16日は17時まで)、入場料大人500円・小学生以下無料。六甲ガーデンテラスへは、六甲ケーブル駅から山上循環バスで約10分。有馬から六甲・有馬ロープウェイ「六甲山頂駅」下車徒歩約5分。六甲ケーブル往復乗車券と山上バスフリー券があった、お得な割引入場券あり。

■水の祭典実行委員会
078-994-2090
http://www.rokusan.com



原爆被害伝えるアニメ 神戸でも上映

戦後60周年の今年。戦争を体験した方々が高齢化していく中で、戦争や原子爆弾の被害を伝える生の声を、

次世代に伝えていくことが急がれる課題となっている。

『アニメ映画』NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘」は、原爆が投下された長崎の被爆地に近い浦上第一病院(現・聖フランシスコ病院)で、自ら被爆しながらも医療活動を続けた医師・秋月辰郎を主人公とした実話をまじえた作品。監督脚本は「うしろの正面だあれ」など平和への祈りを込めたアニメ作品を数多く手がけてきた有原誠治。ナレーションは女優・小林桂樹が担当している。



モデルとなった秋月辰郎医師は、作品が完成して間もない今年10月、永眠した。核兵器のない平和な世界に向けて、次世代に伝えたいこの作品を、一人でも多くの人に見てほしい。

「NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘」神戸上映会
とき 1月7日(土)
11時 14時 16時 18時
会場 兵庫県民会館9階ホール
(兵庫県庁南側)
料金 前売一般1200円(当日1500円)・大学生・障害者シニア1000円、小中高生800円

神戸の本棚

詩集 夢にかえる

福永祥子

風のささやくメロディーを／私への愛の言葉と聞き違えてしまふ／桜貝の唄う海からの便りを／私へのラブレットだど取り違えてしまふ／ああ でも本当の愛は／待たなくても来てはくれない／私は楽器／私自身の愛を奏でる楽器

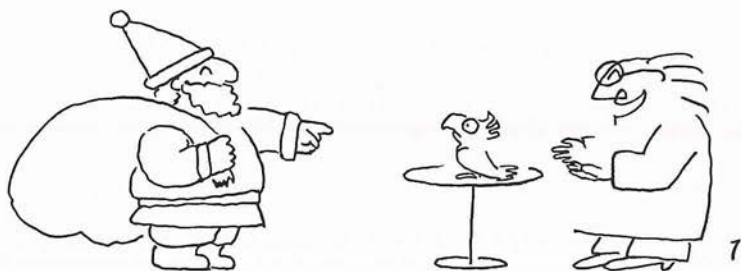
「夢の組曲」より

「多少の困難にでくわしても、言葉にできない苦しみはないと目を逸らさずなんとか詩らしきものを書き続けてきた」という福永祥子の第5詩集。耳に残る言葉で、みずみずしい場面を切りとる。

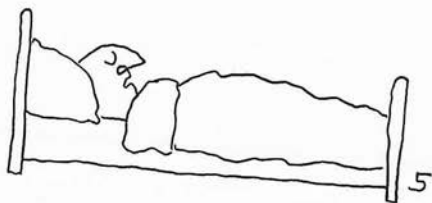


1,200円+税
I D C出版

貸せとおっしゃるなら
ひとばん
お貸ししましょう



三輪車が
ほしいな



まさか
タダで借りるなんて
いワンじゃろうな



五つ目のリュックと震災ルック

大谷 成章（フリーライター）

剪画／とみさわ かよの

あまりにもくたびれていて、みっともないと思われてしまったのだろうか、「これ使えよ」と緑色のリュックをくれた人がいた。「あのと
き以来、神戸ではいい年の男がリュックを背負って電車に乗ってもおかしくはなくなっただけ」と。

私があれば背負うようになったリュックは、これで五つ目。中に入っているのはノートと筆箱。懐中電灯と小さなナイフ。折りたたみの傘。ニコソ。出かけていった先々で手に入れ、コピーした資料でけっこう重たい。宿で部屋に案内してくれるおばさんが「金塊でも入っているのですか」と驚くこともあった。

大震災の直後は、会社に出かけても家に帰れるかどうかは分からないので、多くの人は洗面具や着替えを詰めたりリュックを背負っていた。避難所にいた人は、ご先祖の位牌から預金通帳など、全財産を詰め込んでいた。

私の最初のリュックは、押入れの奥から引き

出した帆布製のキスリングというやつで、山で寝袋代わりにも使える大きな袋だった。疎開する人の荷物を運ぶのには役立ったが、いかにも大きすぎた。

再開した元町の高架下の店でカンタベリーのショルダーパックを見つけた。ラグビーのジャージとパンツを入れるものだろうが、鮮やかなオレンジ色が気に入った。

思うと不思議なのだが、あこのころのまちの人たちは作業着まがいの黒っぽい服装でも、マフラーや手袋など、どこか一点、華やかで明るい色を身につけていた。

ビルの解体がいたるところでおこなわれていて、帽子をかぶり、マスクをして、身をかめて歩いている人々が、一点の輝きをかかげ、まちの陰鬱に抗しているようだった。

そのころの私は『月刊神戸っ子』で「浅井信雄対談」を担当していたが、浅井さんとデザイ

ナー中村一夫さんとの対談で、こんな話が出ていた。

浅井 震災ルックといっても変化ができて、おしゃれを加味しているように思うのですが、地震の直後から見てどう思われますか。

中村 リュックがちょうどいまのファッションにはまっているときだったので、助かったですね。どの人でもどの家でも震災ルックが組めたラッキーがありました。

浅井 リュックも、直後はものをたくさん入れるアウトドアのものが目につきましたが、最近是小さな、背中にせみがとまっているといった感じのですね。そういうのを見ると、深刻さが取れた、ゆとりが出てきたというか、リュックでいいところを見せようという姿勢が見えてきたようですね。

思い返せば、私たちは確かに「震災ルックが組めたラッキーさ」があった。ファッションの流れだけではなく、家にはリュックがひとつかふたつはあり、店頭にさまざまなデザインのものも並んでいるこの国の経済力。

一方でスマトラ沖大津波の被災者も、パキスタン北部大地震の被災者も、映像を見る限り「被災ルック」なんてものは身につけていない。

インド洋の海岸やヒマラヤの西麓で、多くの人が着の身着のままさまよっているようですが伝えられている。

神戸からの海外の災害救援は、1995年5月から始まっている。初夏の衣替えの季節で、避難所から仮設住宅へ移転する人たちが、毛布や冬の衣類を、まだ雪が舞っているサハリン地震の被災地に送った。神戸の被災者が海外災害援助の先頭に立ったのだ。

そこから海外災害援助市民センター（CODE）が誕生し、アフガニスタンでブドウ畑を回復させるなど、被災者の自立と自律を応援している。雪と氷に閉ざされるヒマラヤ西麓の被災者がこの冬を乗り切れるだろうか。現地からのCODEのメールを読むと、ぬくぬくとしてはおられない気持ちになる。



詩画集【神戸、あの日より—1995・故郷】から掲載 【終着駅（東灘区）】

■大谷 成章（おおたに・しげあき）1939年但馬生まれ。元神戸新聞記者。震災当時は月刊神戸つ子編集者。その後フリーライター。「阪神・淡路大震災10年」（共著、岩波新書）など。

「五線紙の街」 神戸を彩った人たち

文・宮田 達夫 絵・中西 省伍



百枚を聴き三ヵ月かけて勉強してできたのが、組曲「月山」だった。

田宮三郎は、夕方のワイドニュースで取材しようとして新井満と会った。組曲「月山」を、今岡頌子と加藤きよ子の二人のバレリーナがどろどろ踊るかにも興味があつた。それが縁で、田宮とアラマン、互いの行き来が始まる。新潟出身のこの男は夢一杯だった。

どうしてこれだけの曲が作れたのかと聞くと、「耳をじーつと傾けているとメロディーが聴こえてこない？くるでしよう？音楽が」

「僕には聴こえない」
「そうかなあ？おかしいなあ、僕には聴こえてくるんだけど」

男はさりげなく言った。新井満を略してアラマンと田宮は呼ぶことにした。

マルチメディア人間を自称するアラマンの人生はここから始まる。即座に勉強して曲を作り出すこのエネルギーはやはり新潟県人のパワーかもしれない。

すばらしいエネルギーを持つアラマンは探究心も強く、メルヘンを漂わす神戸の水が合ったように見受けられた。一度アラマンを「シユガーヒル」に案内すると気に入る、田宮と一緒だと行く所は「シユガーヒル」だった。

新潟生まれのアラマンこと新井満は「月山」という小説を書いた森敦に興味を持ち、見ず知らずなのに酒とギターを抱えて自宅に会いに行つた。ひとしきり話題が途絶えた時、アラマンは持参のギターで森敦の小説の一節にメロディーをつけ、弾き語りで歌い始めた。

それを聴いていた森敦が、素晴らしい、面白いからもう一度と言うものの、酒の席で即興で弾いたのでアラマンは覚えていない。ところが森敦が密かにテープに録音していた。その日はそれで終わり、後日突然アラマンのところに、レコード会社のディレクターが来て、森さんに言われレコードを作りたいと言ってきたのだ。アラマンはシングル版だけかと思いきやLPだということで、そこから作曲の本を買い、LP

彼は不思議といつもギターを持参していた。酒は強いからギター持参でも苦にならない。カウンターの水割りを飲みながらギターを抱え、ポロンポロンとアラマンが弾き出した。来春出す新曲の「わたしのモニカちゃん」である。

「おかみさんの歌作ろうよ」

田宮がアラマンに言った。

「うん」アラマンは何のてらいもなくムードに乗ってメロディーを弾きだし歌い始めた。応接間のような雰囲気のパーカーカウンターが良かったのかもしれない。

「おかみさん、紙、紙、メモしないと忘れちゃうよ」

田宮はふと森敦のときのことを思い出した。

「紙なんてないわよ」おかみさんはあわただし深く探し回った。

「そこに紙あるよ、それでいいよ」

それはカレンダーの紙で、それを小さく破いて裏の白紙のところに、ギターのコードと歌詞を、弦をつま弾きながら書き込んでいった。

「大したもんだよ、おかみさんの曲があるバーなんて他にないよ」

田宮が言うアラマンが「強引なんだから田宮さんは」と言って笑い顔を見せた。カレンダーの紙を引き裂いて裏面の余白に書かれた歌のタイトルは、文字通り「余白」だった。

「余白」

1 あなたにくれた 手紙の余白

書いてなくとも わかります

さよならと ただ ひとことだけで

すんだものを 優しい人

さいごまで あなた

2 私のいえない、心の余白

書いたつもりで 破ります

愛して 愛してと 黒くなるほど

書いても 無駄ですか 悪い人

さいごまで あなた

76-11-30 for Okami san

新井満は組曲「月山」に続いて、神戸の街とバーボンクラブをイメージして「アルファベットアベニュー」というLPを作りあげた。そのジャケットには、バーボンクラブのメンバーが神戸の街角の家にも住んでいる人かのようなストーリーが書かれている。「アルファベットアベニューまで電車で11分」という見出しで、「MONICA」はB面にある。



カレンダーの裏に書かれた新井満のメモ



■宮田達夫（みやた たつこ）
一九三六年東京生まれ。毎日放送入社、大阪府警・大阪市・万国博などの記者クラブ担当。MBS NEWS 担当後、報道局兼事業局長の三足のわらじで、放送記者として宝塚、歌舞伎を取材。イベントプロデューサーとしても活躍。元事業局長。バーボンクラブ会員。フリージャーナリスト。

何も無い

出石 アカル

絵・菅原 洸人

題字・六車明峰



わたしに初孫が生まれたことは前に書いた。名前は漉。娘夫婦がつけたものだが、偶然この欄の絵を描いて下さっている洗人画伯に似た名前になった。読みも「アキラ」ではなく「コウ」。

漉は大阪のマンションに住んでいるが、週に2、3度はうちへやって来る。娘がうちの店で英会話教室を開いているのだ。アイドルタイムに店の一角を貸してやっている。その間、子守ができる。それがうれしい。

今回はその英会話教室にやって来る、愉快的生徒さんの話。

林由璃子さん、66歳。

元気な人である。生きのいいゴムまりのよう

な人。と言っても肥満体というわけではない。明るくて何事にも積極的な人なのだ。

「ジャズピアノを習っています。それからカントリーミュージックに合わせて踊るカントリーダンスも。心が浮き浮きして楽しいです。そして英会話。これは海外旅行のために」

いやなんとも行動的な人である。中でも海外旅行が好きで、働いてお金をためては出掛けるのだと。しかもいつも一人で。つい先日には、ベネズエラなど5カ国にまたがるギアナ高地に行ってきたのだと。

「動物も住めないほどの秘境です。標高1000メートル辺りに、テーブルマウンテ

ンという切り立った岩山が果てしなく続いていくんです。そこにある世界一高い滝、エンジェルフォール（997メートル）には感動しました。六甲山と同じぐらいの高さです。セスナ機で奥地まで行って、そこから川をカヌーで2時間半も行かないと見られないんです」

ほかには、タクラマカン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、チベットなどなど。

「わたし、あまり人の行かない所に行きたいんです。それも都会ではなくて、大自然が残っている所に。だから友達誘ってもだれも付き合ってくれないんです」

この人の旅は、思いつきではない。それぞれに目的意識があつてのことなのだ。

先のギアナ高地は、彼女が50年ほど昔、娘時代に読んだ「ロストワールド」（コナン・ドイル）という小説の舞台になった所で、その時すでに、いつか行きたいと思つたのだと。それが最近実現したので。

ほかに、世界の砂漠巡りもしているとおっしゃる。

これまでに訪れたのは、先のタクラマカンのほかに、サハラ、ヨルダン、シリア、レバノンなど。

なんでそんなとこに？と聞くと、

「わたし、何もないのが好きなんです。湿っぽいのが嫌いなんです」と明快である。

それを聞いてわたしは、ある歌を思い出した。

「何もない何もない 全く何もない」

歌うと彼女も知っていて途中からデュエットになった。

昔、テレビでやっていたアニメ、「始め人間ギャートルズ」の主題歌「やつらの足音のロード」である。わたしが大好きだった歌だ。

地球が生まれたころの様子を歌つたもので、「何もない大地に ただ風が吹いていた」と続く。ああ懐かしい。

さらに彼女は、「いつかエジプトにあるという地上最古の砂漠にも行ってみたい」ののだと。

そんなに海外ばかり、飛行機事故が心配では？と言うと、

「わたし、飛行機事故で死にたいんです。しかも海へ落ちて見つかからないのが望みなんです」

実にアツケラカンとした性格の人である。ところでわたしは飛行機が嫌いである。前にも書いたが、乗つたことがないと言つて呆れられた。わたしが乗ると落ちる気がするのだ。そのことを言うと彼女は、

「えっ？そんなんですか」と目を輝かす。「それならば非わたしと一緒に行きましょう。一緒に飛行機に乗りましょう」とウキウキした様子。

「念願の飛行機事故で死ねるんだから」と。わたしは、オイオイ！である。飛行機で死にたくないから乗らないのに、飛行機で死にたいから一緒に乗ろうとは。

■出石アカル（いずし・あかる）一九四三年兵庫黒生まれ。「風媒花」「火曜日」同人。兵庫県現代詩協会会員。詩集「コーヒーカップの耳」（編集工房ノア刊）にて、二〇〇二年度第三十一回フルメール賞文学部門受賞。